

第 10 回 IUPAC International Conference on Novel Materials and Their Synthesis (NMS-X) 会議報告

熱測定討論会が終わった直後の三連休を使って 10 月 11 日から 14 日の日程で、中国、鄭州で行われた第 10 回の International Conference on Novel Materials and Their Synthesis (NMS-X) に参加してきました。鄭州は、3500 年前の殷の時代から栄えた古都であり、黄河流域の中原と呼ばれる地域にあります。現在でも中国の交通の要地で、東西と南北の鉄道が交差する、内陸部の大都市です。大規模な都市計画が進んでいることもあり、空港を出たところから建設ラッシュでした。参加したこの会議は、毎年、中国で IUPAC の支援のもとに行われ、高分子・有機材料、無機材料など多岐にわたる材料の合成と機能さらに物性に関する議論がなされている会議です。上海の復旦大学の Yuping Wu 教授、Guoxiu Wang 教授が中心に組織されていますが、隔年で上海と様々な都市を回って開催されます。昨年、上海での開催に初めて参加しましたが、今年は鄭州大学の Shaokui Cao 先生、Shengang Xu 先生らが中心に組織されました。地方都市でもあり、参加者は半分程度のような印象でしたが、人数が減った分、講演内容もまとまりが良くなり、興味深い話を沢山きくことができました。スピン機能に関係した金属錯体やセラミックスなどの合同セッションでキーノート講演をさせてもらいました。講演のタイトルは「Spin Frustration and Superconductivity in Organic Radical Compounds – Thermodynamic Approach –」になります。このセッションではグラフェン関係の輸送現象、デバイス化などに関する発表が多く、それ以外にもセラミックス、金属間化合物、分子モーターや、機能性ポリマー、無機材料の不純物添加効果、さらには液晶の逐次相転移など物性に関する様々な話がありました。

参加できたのは、4 日間のみで、しかも鄭州へは、北京、大連などの主要都市からの乗り継ぎになります。On-line での登録ができない会社もあり、また飛行機の乗り換え、時間まち、空港から街中もバスで 2 時間くらい時間がかかりました。本当に短期間の滞在となってしまいましたが、特に材料合成に関わる研究者が、熱測定にどのようなことを期待しているのか良くわかりました。日本からも合成関係の先生が 10 名程度、あとは工学系、特にデバイス関係の先生方が沢山参加されておられた印象です。写真は、中日の夕方に行われた中国の舞踊や歌などのイベントの様子です。今回の会議への参加を第一歩として、新しい分野との研究交流ができれば何よりと思っています。

(中澤康浩)



夕方のコンサートでの中国舞踊